
赤 潮 情 報（赤潮調査結果）

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 7 月 21 日

八 代 海 No. 3

[1] 7 月 20 日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

今回の調査では、全調査点で着色域は確認されませんでした。

前回調査(7/5)と同様にキートセロス属が多く、また、前回と比べると、その他の珪藻類の数・種類共に多い状態でした。

有害種については、コックロディニウム ポリクイコイデスがほぼ全調査点で確認され、多いところでは最高10cells/ml確認されました。

また、シャトネラ アンティーカが桂島東沖で1cells/ml確認されました。

(2) 海 況

表層水温は八代海全域で25.7～29.3℃で平年同時期より高め、塩分は27.4～30.2で平年同時期よりやや低め、透明度は平年同時期より高めとなっています。

水 温：平均 28.0℃ (26.1℃)

塩 分：平均 28.7 (30.8)

透明度：平均 9.3m (8.1m)

()はH元～H16年7月の平均値（同平年値）

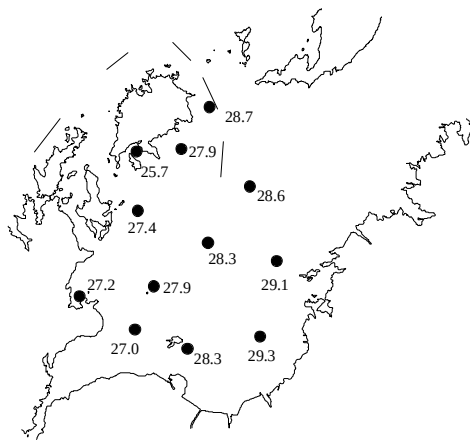
[2] 今後の赤潮発生の予想

ほぼ全調査点でコックロディニウム ポリクイコイデスが確認されています。本種は高水温（27～28℃）・高塩分（32～33）を好むことが知られています。今回の調査では平均塩分が28.7でしたが、これは、7月中旬の降雨の影響が残っているものと考えられ、今後、晴天が続き塩分濃度が上昇すれば、本種が増加することが考えられます。

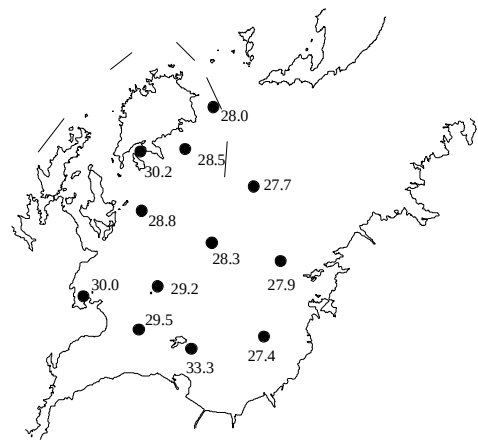
なお、シャトネラ アンティーカについては、水温が上昇し増殖適水温（23～26℃）を超えています。比較的、低塩分を好む種ですので、塩分濃度が低い間は本種の増加にも注意が必要です。

有害種の出現海域付近の養殖場では、今後の水温動向や雨の降り方等にも注意を払いながら、水の色や魚の状態等に十分に注意を払うとともに、当面検鏡によるプランクトンの監視が必要です。

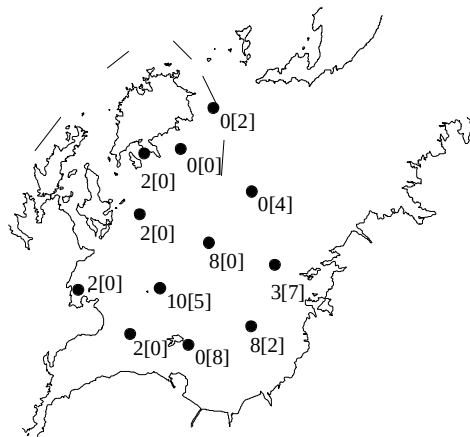
特にコックロディニウム ポリクイコイデスについては、例年、これからの時期に赤潮を形成し、漁業被害をもたらしていますので、今後の細胞数の推移については十分な注意が必要です。



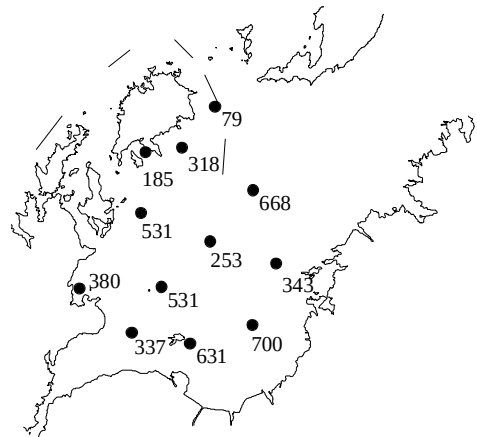
表層水温 (°C)



表層塩分



コックロディニウム ポリクイコイデス表層細胞数 (cells/ml) []内は10m層



キートセロス属表層細胞数 (cells/ml)

赤潮情報(携帯用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑(パソコン用) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>